

# 令和3年度家庭教育支援関係者研修会を開催しました

子育て家庭を包み込む地域づくりを目指して、教育と福祉が連携して開催する本研修会は、今年で5回目を迎え、今回は、家庭教育アドバイザー、家庭教育支援チーム、婦人会、まなび・生活アドバイザー、民生委員、主任児童委員、社会福祉士、保育所・こども園・小・中学校教職員等、様々な立場で保護者や子どもに関わる方々が参加されました。

日時：令和4年1月21日（金） 午後1時30分～午後4時30分  
場所：ホテルルビノ京都堀川 みやこの間

## 【講演】

「ポストコロナの家庭教育をどのように支えるか  
～0歳からの切れ目のない支援がなぜ必要か～」

〈講師〉原 清治（佛教大学副学長）

本府家庭教育支援協議会長である原先生から、就学前からの切れ目のない支援がなぜ必要なのか、エビデンス資料に基づいた説明があり、最近の子ども達の間関係の構築についての実態や幼児期に得た非認知的能力の効果、子どもを褒めるときには努力の過程など具体的に達成した内容をあげながら褒めることが大事であること等々、盛りだくさんの内容を明快にお話いただきました。



## 【パネルディスカッション】

「地域で支え、連携する家庭教育支援  
～家庭教育アドバイザーの取組から見てきた支援のあり方～」

〈コーディネーター〉

原 清治（佛教大学副学長）

〈パネリスト〉

中村 さゆり（久御山町立佐山小学校 家庭教育アドバイザー）

久木山 信光（久御山町立佐山小学校 まなび・生活アドバイザー）

大塚 敬子（精華町立東光小学校 家庭教育アドバイザー）

山本 桂（精華町立東光小学校 校長）

西田 啓子（亀岡市立曾我部小学校 家庭教育アドバイザー）

戸根 武志（亀岡市教育委員会 学校教育課 指導係 指導主事）

3市町（3小学校）での家庭教育アドバイザーによる保護者支援の取組から、学校に家庭教育アドバイザーが入ることの効果や家庭教育支援を進めていく上での課題等、会場からもたくさんの質問があり、これから必要とされる家庭教育支援について考える時間となりました。

## 【感想】

- ・就学前の子ども、保護者へのアプローチが重要であることを再認識した。
- ・福祉・教育、両面からの支援の必要性を感じる。
- ・スマホを頼りに子育てしている方が多く、あまり口出しをしてはダメかと思っていたが、自然にアドバイスできる場所があることがとても必要だと思った。
- ・学校に先生ではない立場の人がいて、相談できることは有効であると思う。また、学校とのつながり方が分からない方も多く、窓口となる人がいるのはありがたいと思う。
- ・子育て世代包括支援センターとの連携が、これまでできていないなと思い、今後どのように関わられるかを検討したい。
- ・子どもの支援だけでなく、保護者の話を聞いていくことが大切だと思った。
- ・原先生のお話、もっともっと聞きたかった。自分の子育て中に聞けていたら良かったなあと思いつつ、孫育てに活用したい、地域に伝えていきたいと思った。